

作成：1995年 4月 1日

改訂：2016年 6月 1日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	NSリチウム
会社名	日本化成株式会社
住 所	埼玉県加須市西ノ谷801-1
担当部門	中央研究所
電話番号	0120-974237 (製品問合せダイヤル)

2. 危険有害性の要約

最重要危険有害性

有害性：経口摂取すると急性中毒を起こす。

アルカリ性の水性溶液である。

酸性物質と絶対に混合してはならない。NSリチウムのpHは8~10であるが、pHを7以下にするとNO_xガスを発生して危険である。

その他混合を避ける物質としては、ヒドラジン及びその水和物、過酸化水素または過マンガン酸カリウム等の酸化性物質、アンモニウム塩がある。

環境影響：水生生物に対して有害

物理的及び化学的危険性：通常の取扱いでは火災の危険性はない。

特定の危険有害性：該当なし

GHS分類

1) 物理化学的危険性

	危険有害性項目	該当物質なし
物理化学的危険性	火薬類	—
	可燃性・引火性ガス	—
	可燃性・引火性エアゾール	—
	支燃性・酸化性ガス	—
	高压ガス	—
	引火性液体	—
	可燃性固体	—
	自己反応性化学品	—
	自然発火性液体	—
	自然発火性固体	—
	自己発熱性化学品	—
	水反応可燃性化学品	—
	酸化性液体	—
	酸化性固体	—
	有機過酸化物	—
金属腐食性物質	—	

2) 健康に対する有害性および環境に対する有害性

	危険有害性項目	該当物質なし
健康 に 対 す る 有 害 性	急性毒性(経口)	—
	急性毒性(経皮)	—
	急性毒性(吸入:ガス)	—
	急性毒性(吸入:蒸気)	—
	急性毒性(吸入:粉じん)	—
	急性毒性(吸入:ミスト)	—
	皮膚腐食性・刺激性	—
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	—
	呼吸器感受性	—
	皮膚感受性	—
	生殖細胞変異原性	—
	発がん性	—
	生殖毒性	—
	特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)	—
	特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)	—
吸引性呼吸器有害性	—	

3) ラベル要素

一般名	該当物質なし
絵表示	—
注意喚起語	—
危険有害性情報	—

3. 組成・成分情報

- 1) 単一製品・混合物の区別：混合物
- 2) 化学名または一般名：亜硝酸リチウム水溶液
- 3) 化学特性（化学式）：LiNO₂、LiNO₃、LiOH
- 4) 化管法及び安衛法による成分表示
該当なし
- 5) 日本建築仕上材工業会認定ホルムアルデヒドの放散等級自主制度（Fマーク）

日本建築仕上材工業会登録	
登録番号	0609106
放散等級 区分表示	F☆☆☆☆
問合せ先	http://www.nsk-web.org/

6) 揮発性化合物等に関する情報

以下に示す物質に関しては、原材料・製造工程において使用していない。

- ①アセトアルデヒド
- ②トルエン
- ③キシレン
- ④エチルベンゼン
- ⑤スチレン
- ⑥パラジクロロベンゼン
- ⑦テトラデカン
- ⑧クロロピリホス
- ⑨フェノブカルブ
- ⑩ダイアジノン
- ⑪フタル酸ジ-n-ブチル
- ⑫フタル酸ジ-2-エチルヘキシル

4. 応急措置

- 目に入った場合 : 直ちに大量の清浄な流水で瞳の裏まで十分に洗浄し、直ちに医師の手当てを受ける。
- 吸入した場合 : 安静にさせて新鮮な空気のある場所に移し、必要な場合は人工呼吸をし、直ちに医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 付着した部分を水または温水を流しながら石鹸で洗い流す。
- 飲み込んだ場合 : 多量の水を飲み吐き出した後、直ちに医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 成分の殆どが無機物であり、燃焼しない。泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素消火剤、水噴霧
- 火災時の特定危険有害性 : アルカリ性の水性溶液であるので、流出しないように注意する。
- 特定の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、上記の消火剤を使用して消火する。また、延焼の恐れのないよう散水して周辺のタンクや建物等を冷却する。消火作業は風上から行う。
- 消火を行う者の保護 : 適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : アルカリ性の水性溶液であるので皮膚や衣服に付着しないように注意する。
- 環境に関する注意事項 : 流出した製品が河川等に排出され、環境中の生物や水質に影響を及ぼさないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切処理されずに河川や下水に流出しないように注意する。
- 水質汚濁に関する環境基準(1993) 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 10mg/L
水質汚濁防止法の排水基準(平成13年7月施行)
アンモニア性窒素×1/4 + 亜硝酸性窒素 + 硝酸性窒素の合計量 100mg/L
- 除去方法 : 少量の場合には水で洗い流す。

多量の場合は、漏出物を可能な限り密閉できる容器に回収、拭き取った後水で洗い流す。漏出した場所の周辺に、ロープを張る等して関係者以外の立ち入りを禁止する。こぼれた場所は滑りやすいので注意する。酸類で中和してはならない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：pH8～10であるため、目、皮膚および衣類に触れないように、保護メガネ、手袋等の保護具を使用する。また、休憩場所には汚染をさけた保護具を持ち込んで서는ならない。酸性物質と混ぜない。

噴霧での使用はしない。

注意事項：容器の栓は、必要などきのみ開栓し、常時密栓しておく。

容器を転倒させ、衝撃を加え、または引きずる等の粗暴な取扱いをしない。

安全取扱い 注意事項：アルカリ性の水性溶液であるので皮膚や衣服に付着しないように注意する。

酸性物質と絶対に混合してはならない。NSリチウムのpHは8～10であるが、pHを7以下にするとNO_xガスを発生して危険である。その他混合を避ける物質としては、ヒドラジン及びその水和物、過酸化水素または過マンガン酸カリウム等の酸化性物質、アンモニウム塩がある。

保管

適切な保管条件：直射日光と凍結を避け、乾燥した冷暗所に保管する。通気のよい場所で容器を密閉して保管する。希釈したり、他の物質と混合した状態で保管しない。

技術的対策：密閉容器に入れ、涼しくて換気の良い場所（冷暗所等）に直接日光や雨水を避けて貯蔵する。0℃以下では結晶が析出する。

安全な容器包装材料：溶液はアルカリ性のため耐食性のある材質を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置する。

保護具：呼吸用保護具

簡易防じんマスク

目の保護

側板付き保護メガネ（眼鏡）、ゴーグル型

手の保護

保護手袋（ゴム）

皮膚及び身体の保護具

保護服、保護長靴、保護前掛け

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

液体：青色透明、無臭、pH：8～10

物理的状態が変化する特定の温度／温度範囲

沸点：373K（100℃）

凝固点：273K（0℃）

分解点：亜硝酸リチウム（固体）185℃

密度：1.2～1.3

溶解性

溶媒に対する溶解性：データなし

10. 安定性及び反応性

安定性：通常の取り扱いにおいては安定。

反応性：酸性物質と反応してNO_xガスを発生する。

危険有害な分解生成物：酸性物質と反応してNO_xガスを発生する。

11. 有害性情報

急性毒性：LD₅₀ (マウス) 419.3mg/kg

亜硝酸塩のような硝酸性窒素を経口摂取・吸入すると急性中毒を起こし、極めて危険。症状として吐き気、嘔吐、チアノーゼ、動悸、血圧降下がみられ、ヘモグロビンの70%以上がメトヘモグロビン化すると致命的中毒を起こし、運動失調、著しい血圧降下、虚脱、昏睡、呼吸麻痺を起こす。リチウムについては、低ナトリウム状態時に多量に経口摂取すると中毒症状として、嘔吐、失調、錯乱、肝障害、下痢、腎障害を起こすと報告されている。

局部効果：皮膚・目・粘膜に対して弱い刺激性あり。

一般名	該当物質なし
急性毒性 経口 LD ₅₀	—
吸入(粉じん)	—
経皮 LD ₅₀	—
皮膚腐食性・刺激性	—
眼に対する重篤な損傷・刺激性	—
呼吸器感受性	—
皮膚感受性	—
生殖細胞変異原性	—
発がん性	—
生殖毒性	—
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)	—
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)	—
吸引性呼吸器有害性	—

12. 環境影響情報

生態毒性：水生生物に対して有害

T L m (ヒメダカ) 24hrs 120ppm、48hrs 84ppm、72hrs 70ppm
(亜硝酸リチウム固形分当たり)

分解性：自然界では、亜硝酸酸化細菌により酸化されて硝酸塩になる。

その他：水質汚濁に関する環境基準(1993)硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素10mg/ℓ

水質汚濁防止法の排水基準(平成13年7月施行)

アンモニア性窒素×1/4+亜硝酸性窒素+硝酸性窒素の合計量100mg/ℓ

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

少量の廃液・残液は、大量の水で希釈し(1000倍以上)中性化して排出する。ただし、酸類と接触しない安全な場所を選んで排出する。

汚染容器・包装：空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国際規制：国連分類の定義上、危険物に該当しない。

輸送の特定の安全対策及び条件：容器からの漏れ、転倒、落下、破損がないように荷崩れ防止等に配慮する。日光の直射や凍結を避け5～30℃で輸送することが望ましい。
船舶または航空機による輸送においては、「u n」マーク入りの容器で輸送する。

15. 適用法令

水質汚濁防止法：亜硝酸性窒素＋硝酸性窒素

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性、揮発性有機化合物等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の実施を前提としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。